

# 平成 23 年度畜産経営指導実施結果

平成 24 年 3 月

公益社団法人 新潟県畜産協会

# 目 次

1	実施状況の概要	1
2	指導対象経営の概要	2
3	継続指導事例の指導結果	3
4	指導区分別の実施結果の概要	6
5	緊急課題対応型指導経営体の生産性向上に向けた取り組み内容	8
(1)	酪農経営	8
(2)	肉用牛経営	10
(3)	養豚経営	11
6	参考資料	13

## 1 実施状況の概要

平成 23 年度の畜産経営指導は、表-1 に示した 4 種類の指導区分を設定し、指導は別掲の「平成 23 年度畜産コンサルタント名簿」に記載した当協会職員 4 名と当協会が依頼した新潟県及び畜産関係団体職員等 31 名の計 35 名の畜産コンサルタントが実施した。なお、個別の指導に当たっては、概ね 2～3 名の畜産コンサルタントで指導班を編成して実施した。

指導実施戸数は、表-2 のとおり合計 37 戸であり、特に肉用牛については、本県の「にいがた和牛」増頭に向けた施策の一環として指導対象を黒毛和種飼養経営体に特化し、指導戸数も全体の約半数の 18 戸とした。

本指導実施結果の取りまとめは、現状の畜産経営の収益性を阻害している要因と技術上の課題をより明確なものとするとともに、緊急課題対応型指導では、配合飼料価格の高止まりに対応して経営改善に努めている先進的な取り組み内容について、普及を図るため畜種別に整理した。

表-1 指導区分と指導内容

指導区分	指導内容
総合	経営診断分析により問題点を把握し、それを改善するための指導
ワンポイント	経営体が抱えている特定課題（生産技術の改善、新技術の導入方策、損益計算書、貸借対照表等の財務諸表の作成・分析手法の習得等）を解決するための指導
フォローアップ	総合診断受診後の経営体への助言・指導内容の定着を図るための指導
緊急課題対応型	配合飼料価格高騰の影響により畜産経営の所得が大幅に低下していることから、飼養管理技術等の向上を課題とした改善指導を通年・継続的に行い、改善効果・経営実績を把握して、他の経営への普及を図るための指導

表-2 指導実施戸数

区分	総合指導	ワンポイント指導	フォローアップ指導	緊急課題対応型指導	合計
酪農経営	3 戸	2 戸	1 戸	3 戸	9 戸
肉用牛経営	3	6	6	3	18
養豚経営	3	2	2	3	10
合計	9	10	9	9	37

## 2 指導対象経営の概要

### (1) 経営形態

平成 23 年度に指導を実施した 37 戸の中から、技術水準、所得、財務内容など経営全体の状況を把握できた酪農 6 戸、肉用牛 7 戸、養豚 6 戸の合計 19 戸の診断実績数値を新潟県畜産経営指導指標値と対比して「6 参考資料」として掲載した。

これらの 19 戸について、畜産専業、後継者就農、自給粗飼料生産の状況を取りまとめると表-3 のとおりであった。畜産専業戸数割合は酪農が 100%、養豚では 66.7%と高かったが、肉用牛は全て稲作との複合経営であった。

また、後継者就農状況は、19 戸のうち 12 戸 (63.2%) で後継者が就農しており、特に養豚では 83.3%と他の畜種に比べて非常に高かった。

酪農、肉用牛における自給粗飼料生産状況は、和牛繁殖では全ての事例が自給粗飼料生産に取り組み、酪農では 4 戸 (66.7%) で取り組みが見られたが、和牛肥育では 5 戸中 2 戸 (40.0%) と少なかった。

表-3 指導対象経営の経営形態 (戸、%)

区 分	酪農経営	肉用牛経営		養豚経営	合 計
		繁殖経営	肥育経営		
診 断 実 績 掲 載 戸 数	6	2	5	6	19
畜 産 専 業 戸 数	6 (100)	0 (0)	0 (0)	4 (66.7)	10 (52.6)
後 継 者 就 農 戸 数	3 (50.0)	2 (100)	2 (40.0)	5 (83.3)	12 (63.2)
自 給 粗 飼 料 生 産 戸 数	4 (66.7)	2 (100)	2 (40.0)		8 (61.5)

(注) 自給粗飼料生産戸数の合計は酪農経営、肉用牛経営戸数に対する比率で示した。

### (2) 飼養規模

指導対象経営の飼養規模を新潟県が取りまとめた家畜頭羽数調査結果 (平成 23 年 2 月 1 日現在) と比較すると、次のとおりであった。

- ・ 酪農は経産牛規模が 18.1~49.8 頭の範囲にあり、県平均の 25.1 頭以上の経営が 6 戸中 3 戸であった。
- ・ 和牛繁殖は繁殖牛規模が 32.4~33.9 頭の範囲にあり、県平均の 5.3 頭を大きく上回り、和牛肥育でも肥育牛規模が 33.6~127.5 頭と県平均の 24.2 頭を全て上回り、全体的に規模の大きな経営が多かった。
- ・ 養豚は種雌豚規模が 43.0~151.9 頭の範囲にあり、県平均の 109.2 頭以上の経営が 1 戸 (16.7%) と少なかった。

### 3 継続指導事例の指導結果

総合指導及び緊急課題対応型指導で平成 22 年度、23 年度に継続して総合的な指導を実施し、経営全般の分析を行うために必要な一連のデータを把握できた経営は 15 戸あった。

表-4 に示したこれらの継続指導事例 15 戸の飼養畜 1 頭当たり年間所得額の推移を畜種別に見ると、酪農では所得が向上したが、肉畜経営では和牛繁殖、和牛肥育及び養豚のいずれも所得が減少した。

この結果、表-5 に示したとおり、継続指導事例 15 戸のうち、前年より所得額の増加した経営は酪農 5 戸中 4 戸、肉用牛 6 戸中 1 戸、養豚 4 戸中 1 戸で、飼養畜 1 頭当たり年間所得額と同様、酪農ではほとんどの経営の所得額が増加した。

表-4 飼養畜 1 頭当たり年間所得額 (戸、円)

区 分	集計戸数	平成 22 年	平成 23 年	増 減
酪 農 経 営 (経産牛 1 頭当たり)	5	165,544	221,805	56,161
和 牛 繁 殖 経 営 (繁殖牛 1 頭当たり)	2	137,715	96,966	▲40,749
和 牛 肥 育 経 営 (肥育牛 1 頭当たり)	4	81,432	59,482	▲21,950
養 豚 経 営 (種雌豚 1 頭当たり)	4	52,409	23,757	▲28,652

表-5 経営体別年間所得の増加 (平成 22 年度との比較) (戸、%)

区 分	集計戸数	年 間 所 得	
		増加戸数	増加割合
酪 農 経 営	5	4	80
和 牛 繁 殖 経 営	2	0	0
和 牛 肥 育 経 営	4	1	25
養 豚 経 営	4	1	25

畜種別の主な経営分析数値の推移は次のとおりであった。

#### (1) 酪農経営

酪農では、前掲の表-4 のとおり、経産牛 1 頭当たり所得が前年に比べて 56 千円増加した。その要因は、表-6 に示したとおり、経産牛 1 頭当たり乳量が 449kg 向上したことや、飼料 TDN 自給率が 4.3% 向上し、生乳 1kg 当たり総原価が 4.47

円低減したことによる。さらに、収入面で生乳 1kg 当たり販売乳価が 1.43 円上昇したことも所得向上につながった要因となった。

今後改善すべき課題は、経産牛処分率が 38.4%と前年より 7.4%増加している  
ので、繁殖障害牛の早期治療の実施、分娩前後の疾病発生防止が必要である。

表-6 酪農経営における継続指導事例の分析数値 (集計戸数：5戸)

区 分	単位	平成 22 年	平成 23 年	増 減
生乳 1kg 当たり販売乳価	円	116.10	117.53	1.43
生乳 1kg 当たり総原価 (自家労働費控除)	円	97.87	93.40	▲4.47
飼料 TDN 自給率	%	4.4	8.7	4.3
乳飼比 (全体)	%	55.8	54.3	▲1.5
平均分娩間隔	月	16.2	15.9	▲0.3
経産牛処分率	%	31.0	38.4	7.4
経産牛 1 頭当たり乳量	kg	8,790	9,239	449
経産牛処分率	%	31.0	38.4	7.4
平均体細胞数	万个	25.7	23.5	▲2.2

## (2) 和牛繁殖経営

和牛繁殖では、前掲の表-4 のとおり、繁殖牛 1 頭当たり所得が前年より 41 千円減少した。その要因は、表-7 に示したとおり、子牛 1 頭当たり総原価や繁殖牛 1 日 1 頭当たり飼料費は減少したものの、子牛販売価格が雌・雄子牛ともに低迷し、特に雄子牛では▲46 千円と大幅に減少したことによる。

今後改善すべき課題は、分娩間隔 12 か月以内を維持するとともに、子牛の日齢体重を向上するために適切な飼養管理を行うこと、また生産した子牛をさらに高値で販売するために、高能力繁殖牛への更新が必要である。

表-7 和牛繁殖経営における継続指導事例の分析数値 (集計戸数：2戸)

区 分	単位	平成 22 年	平成 23 年	増減
雌子牛販売価格	円	342,000	333,179	▲8,821
雄子牛販売価格	円	492,856	446,696	▲46,160
子牛 1 頭当たり総原価 (自家労賃控除)	円	304,715	301,644	▲3,071
繁殖牛 1 日 1 頭当たり飼料費	円	247	231	▲16
平均分娩間隔	月	11.9	12.0	0.1
雌子牛日齢体重	kg	0.93	0.93	0
雄子牛日齢体重	kg	1.04	1.04	0

### (3) 和牛肥育経営

和牛肥育では、前掲の表-4 のとおり、肥育牛 1 頭当たり所得が前年に比べ 22 千円減少した。その要因は、表-8 に示したとおり、枝肉 1kg 当たり素牛費が 26 円下がり、枝肉格付 4 等級以上率が 10.6%上がったものの、枝肉相場の低迷により枝肉 1kg 当たり販売価格が 21 円低下したことに加え、肥育牛 1 日 1 頭当たり飼料費が 40 円増加したことによる。

今後改善すべき課題は、去勢牛 1 日当たり増体重が指標値以下の経営が 2 戸 (40%)、また、事故率が指標値以上の経営が 3 戸 (60%) 見られたことから、基本的な飼養管理と衛生管理の徹底が必要である。

表-8 和牛肥育経営における継続指導事例の分析数値 (集計戸数：4 戸)

区 分	単位	平成 22 年	平成 23 年	増減
枝肉 1kg 当たり販売価格	kg	2,232	2,211	▲21
枝肉 1kg 当たり素牛費	kg	871	845	▲26
枝肉 1kg 当たり総原価 (自家労賃控除)	円	2,172	2,270	98
肥育牛 1 日 1 頭当たり飼料費	円	501	541	40
去勢牛平均枝肉重量	kg	481	487	6
去勢牛 1 日当たり増体重	kg	0.78	0.76	▲0.02
事 故 率	%	1.1	2.1	1.0
枝肉格付 4 等級以上率	%	80.4	91.0	10.6

### (4) 養豚経営

養豚では、前掲の表-4 のとおり、種雌豚 1 頭当たり所得が前年に比べ約 29 千円減少した。その要因は、表-9 に示したとおり、枝肉 1kg 当たり販売単価が 5 円上昇したにもかかわらず、枝肉 1kg 当たり総原価が 24 円上昇したことによるが、配合飼料価格の高止まりによるところが大きい。

今後改善すべき課題は、配合飼料価格の高止まりの中で一定の所得を確保するために、肉豚事故率の減少、1 日当たり増体量の増加、枝肉上物率の向上等を図る必要がある。

表-9 養豚経営における継続指導事例の分析数値 (集計戸数：4 戸)

区 分	単位	平成 22 年	平成 23 年	増 減
枝肉 1kg 当たり販売価格	円	448	453	5
枝肉 1kg 当たり総原価 (自家労働費控除)	円	430	454	24
年間換算離乳子豚頭数	頭	23.0	23.3	0.3
肉 豚 事 故 率	%	3.5	3.7	0.2
1 日 当 たり 増 体 量	g	657	662	5
枝 肉 上 物 率	%	49.7	53.7	4.0

## 4 指導区分別の実施結果の概要

### (1) 総括

平成 23 年の指導結果は、配合飼料価格の高止まり等による生産コストの上昇や畜産物の消費低迷に伴う販売価格の下落等から、非常に厳しい状況となった。

特に肉畜経営では、3月以降、東日本大震災による消費の減退や福島第一原発事故による放射性物質の影響等から枝肉価格が低迷し、和牛肥育1戸と養豚2戸がマイナス所得となった。

### (2) 総合指導

総合指導では、対象の 9 戸について、技術・財務面を含めた経営全般の分析を行い、対象経営が抱える問題点を把握して改善指導を実施した。

- ・ 酪農は対象 3 戸全てで平均分娩間隔が指標の 13.5 か月を上回っていたことから、繁殖障害牛の早期治療の実施について指導した。
- ・ 肉用牛は対象 3 戸のうち、1 戸は増体が指標の 0.78kg を下回っていること、1 戸は疾病の発生が多く、事故率が指標の 2% 以上であったことから、飼料給与体系の改善と衛生管理の徹底について指導した。
- ・ 養豚は対象 3 戸全てで離乳時育成率が指標の 90% を下回っており、年間換算離乳子豚頭数も指標の 23 頭を下回っていたことから、哺乳中の子豚の管理の徹底について指導した。

### (3) ワンポイント指導

ワンポイント指導では、課題を解決するための生産技術指導を 10 戸の経営を対象として実施した。畜種別に改善が必要な課題と指導内容は次のとおりである。

- ・ 酪農は対象の 2 戸のうち、1 戸は体細胞数が年間平均で 62 万個と多いこと、1 戸は牧草地の収量が生草換算で 10a 当たり 2.2 t と少なかったことから、乳房炎の防除対策と牧草栽培技術について重点的に指導した。
- ・ 肉用牛は対象の 6 戸のうち、和牛繁殖が 1 戸、和牛肥育が 5 戸であった。和牛繁殖は子牛の疾病件数が多く、死亡牛が発生していたことから、子牛の衛生管理の徹底について指導した。和牛肥育では枝肉格付 4 等級以上率が平均 47% と低い (1 戸)、飼養管理が適切でない (2 戸)、生産コストが高い (2 戸)、疾病が多発 (2 戸) していたことから、肥育ステージに応じた飼料給与体系への変更や自給粗飼料生産によるコスト低減対策、衛生管理の徹底について指導した。
- ・ 養豚は対象が 2 戸で、2 戸とも離乳時育成率が 80% 台 (指標 90% 以上) と低いこと、肉豚事故率がそれぞれ 5.5%、14.7% (指標 3% 以内) と高いことから、哺乳中の子豚及び離乳後の肉豚の事故防止対策等について指導した。



#### (4) フォローアップ指導

フォローアップ指導では、総合診断受診後の助言・指導内容の定着を図るための指導を9戸の経営を対象に実施した。

- ・ 酪農は対象が1戸で、課題は分娩間隔の短縮と体細胞数の減少であったが、分娩間隔は前年の17.2か月から15.9か月、体細胞数は前年の27.5万個から23.6万個と改善傾向にあった。また、経産牛1頭当たり乳量も前年の8,430kgから8,509kgに向上したものの、新たに関節炎が増加していることから予防対策について指導した。
- ・ 肉用牛は対象の6戸のうち、和牛繁殖が1戸、和牛肥育が5戸であり、和牛繁殖の課題は分娩間隔の短縮であったが、前年の13.9か月から13.5か月に改善した。しかし、分娩間隔が依然として長いため、分娩間隔の短縮を図るよう指導した。和牛肥育の課題は枝肉格付4等級以上率の向上であったが、1戸で前年の38.0%から50.8%に改善したものの、残り4戸では前年の平均67.7%から平均45.8%に低下したことから、枝肉品質の向上を図るよう指導した。
- ・ 養豚は対象が2戸で、上物率の向上が課題であった経営は、前年より0.5%改善し、枝肉重量が小さかった経営では前年より0.7kg増加したが、両経営とも繁殖成績が悪化したことから、種雌豚の発情の見逃し防止等、個体管理・観察の徹底について指導した。

#### (5) 緊急課題対応型指導

緊急課題対応型指導においては、配合飼料価格の高止まりに対応して多様な工夫や対策を行い、生産性の向上に努めている9戸（酪農3戸、肉用牛3戸、養豚3戸）について、取り組み内容を調査した。

後掲した表-10-1～12-2に、緊急課題対応型指導を実施した9戸の生産性向上を図るための取り組み内容を整理した。

## 5 緊急課題対応型指導経営体の生産性向上に向けた取り組み内容

緊急課題対応型指導を実施した9戸の畜産経営体が実践している生産性向上を図るための取り組み内容を調査し、次のとおり畜種別に整理した。

### (1) 酪農経営

表-10-1 生産性向上を図るために実践している取り組み内容

目 的	取り組み内容	効 果
自給粗飼料の確保	飼料用トウモロコシを個人で5.2ha栽培し、作業機は共同で利用して、サイレージ調製は鎮圧、ラッピング作業を丁寧を実施	良質サイレージ調製ができたことに加え、通年サイレージ給与（経産牛1日1頭当たり25kg）を達成し、乳飼比（経産牛当たり）を36.8%に低減できた。 さらに、サイレージを1kg当たり9.2円と安く生産できたことから、経産牛1頭当たり255千円の高所得につながった。
	4戸の酪農家で新たに草地生産組合を設立して補助事業を有効に活用し、飼料作物栽培機械を導入	飼料作物栽培機械導入に伴う初期投資額の個人負担を軽減でき、機械の利用面積を拡大することにより生産コストもサイレージ（トウモロコシ、牧草含む）1kg当たり17円に抑えることができた。
	細断型ロールベアラ1台を1/3補助付きリース事業を活用して2戸共同で導入し、トウモロコシサイレージの調製方法をサイロ方式からラッピング方式に転換	二次発酵によるトウモロコシサイレージの廃棄（詰込量の9%程度）がなくなり、飼料のTDN自給率が9.9%から13.0%に向上し、乳飼比（経産牛当たり）を42.2%に低減できたことから、経産牛1頭当たり249千円の高所得につながった。
	5戸の酪農家で新たに自給飼料生産組合を設立し、補助事業を有効に活用して作業機（細断型ロールベアラ等）を導入、新たに飼料用トウモロコシ12ha、飼料用稲24haを栽培して、サイレージ利用	共同機械による共同作業により、サイレージ1kg当たり生産費は飼料用トウモロコシ16円、飼料用稲13円と購入乾草に比べて安く調達できた。 平成23年から通年サイレージ給与が可能となり、飼料自給率が4.5%から18.0%に向上し、乳飼比（経産牛当たり）を47.8%から39.7%に低減できた。 その結果、購入飼料費を年間100万円節減でき、経産牛1頭当たり268千円の高所得につながった。

表-10-2 生産性向上を図るために実践している取り組み内容

目 的	取り組み内容	効 果
高能力牛の選抜	牛群検定事業に参加して毎月の個体別乳量・乳成分を測定	飼養牛の能力を数値で把握し、能力の高い牛を選抜できるとともに、個体別に必要な飼料量を適切に給与でき、各個体の産乳能力を発揮させることにより能力判定の正確度が向上した。
	育種価の高い後継牛を効率よく確保するために性判別精液を育成牛の人工授精に利用	育成牛のうち高乳量が期待できる 8 頭に性判別精液を人工授精し 4 頭で受胎を確認した。その結果、比較的乳量の低い経産牛には和牛の精液を授精でき、交雑種子牛の販売頭数の増加により子牛販売収入の向上も期待できる。
夏季の暑熱による被害の防止	牛舎内で換気扇による送風量の少ない場所に新たに換気扇を増設し、牛舎内全体に送風できるよう配置を検討して再設置	8 月の乳脂率が前年の 3.5%から 3.9%に、無脂固形分率が 8.3%から 8.5%に向上し、夏季の乳成分低下が解消された。
	配合飼料タンクを牛舎内に設置	直射日光が飼料タンクに当たらないため、熱による飼料の変敗を防止できた。
	牛舎壁面の外側に寒冷紗を設置	夏季の乳成分低下を防止でき、最低でも乳脂率が 3.7%、乳タンパク質率が 3.2%以上となった。
	トンネル換気方式の導入により畜舎内の通風を確保	
乳房炎の防除	牛群検定による個体別の乳成分検査結果を活用し、体細胞の多い牛は早期治療を実施	乳房炎牛が早期治療により減少し、牛床の乾燥化が図られたことから、体細胞数を対策前の 33 万個から 18 万個に低減でき、経産牛 1 頭当たり乳量が 8,350kg から 8,735kg に向上した。
	弾力性の低下した牛床マットを分娩した牛から順次、新しいマットに交換	
	敷量としてオガクズ、木材チップを無償で調達するとともに、不足分はモミガラを購入	
飼料の効率的な給与	飼料用トウモロコシサイレージ、飼料用稲サイレージを利用した完全混合飼料を調製して給与	年間を通じて一定品質で養分含量の高い飼料を給与できるようになり、濃厚飼料 1kg 当たり産乳量が 2.43kg から 2.61kg に増加し、経産牛 1 頭当たり乳量が 9,452kg から 9,925kg に向上した。

(2) 肉用牛経営

表-11-1 生産性向上を図るために実践している取り組み内容

目 的	取り組み内容	効 果
分娩間隔の短縮	家畜人工授精師の資格を取得し、常時人工授精を実施できる体制を整備	適期に授精することで、平均分娩間隔が 11.9 か月となり、1 年 1 産を達成した。
	繁殖牛の牛房の屋外にパドックを設置し、十分に歩き回れるスペースを確保	発情行動の観察が容易になったことで、適期に授精できるようになった。 併せて、体調把握と早期の疾病発見が可能となった。
	繁殖牛の観察回数・観察時間の増加	発情の見落としが少なくなり、適期に授精でき、授精回数が 1.7 回とほぼ指標値 (1.5 回) となった他、分娩間隔が 11.9 か月となり、1 年 1 産を達成した。
肢蹄の事故防止	削蹄師免許を取得し、繁殖牛は年 1 回程度、子牛は出荷前に削蹄を実施	自分で削蹄することにより、削蹄料を節減できるとともに、蹄病の予防及び牛の体型維持につながった。
肥育管理技術の向上	1 牛房当たり肥育牛頭数を 2~4 頭に少数化	飼料給与の微調整や疾病の早期発見が容易となり、枝肉格付 4 等級以上率 80% 以上と指標値 70% 以上を達成した。
	積極的に粗飼料生産を行い、購入粗飼料と併せて多種類の粗飼料を給与	一部の粗飼料で品質低下が見られた場合のビタミン A 含量の減少、牛の食欲減退等のリスク分散につながった。
	肥育前期の牛に嗜好性の高い TMR やサイレージを給与	肥育前期に粗飼料を確実に摂取させることで、以降の濃厚飼料多給期間に備えた腹づくりができた。
	肥育後期飼料に嗜好性の高い発酵飼料を加えて給与	嗜好性の高い飼料を加えることで、牛の食い止まりを防止し、増体重は指標値 0.78kg 以上を達成した。
	月齢や体重を考慮した牛群構成	発育に応じた管理が可能となり、個体間のばらつきを防止できた。
	飼料の切り替え月日、ビタミン A 投与月日を掲載したカードを牛房毎に提示	個体の状態が一目で把握できるため、個体観察が容易になった他、飼養管理者間で情報を共有し、管理ミスを防止できた。

表-11-2 生産性向上を図るために実践している取り組み内容

目 的	取り組み内容	効 果
安価な粗飼料の確保	32.4ha の草地を 2 戸共同で管理し、作業機を共同で使用し粗飼料を収集	作業機の維持コストを低減することにより、牧乾草を 1kg 当たり生産費で 20.5 円と購入乾草の半額程度で確保できた。 粗飼料自給率は約 86% と高い。
	経営者が所有する田畑で粗飼料の生産や稲わら収集を行う他、河川敷の一部を借りて野草を収集	牧乾草を 1kg 当たり生産費で 22.2 円と購入乾草の半額程度で確保し、また、稲わらを 9.5 円と購入価格の 4 分の 1 程度で確保できた。 粗飼料自給率は約 81% と高い。
防寒対策	子牛の牛房につり下げ式の電気ヒーター、保温マットを設置し、子牛を保温	防寒対策の徹底により、当期の子牛の疾病が 4 件から 1 件に減った。
	牛舎の入り口にベニヤ板を設置し、すきま風を防止	
生産コストの低減	自家配合した混合飼料を使用することで、濃厚飼料費を低減	地域の畜産農家 3 人で設立した有限会社で単味飼料を安価に配合することにより、濃厚飼料費を 1kg 当たり 51.6 円と低く抑えられた。
衛生環境の向上	給餌後に飼槽を清掃することで、清潔な状態を維持	食べ残し飼料の変敗を防ぎ、疾病の発生を予防できた。

### (3) 養豚経営

表-12-1 生産性向上を図るために実践している取り組み内容

目 的	取り組み内容	効 果
分娩間隔の短縮	混合飼料の活用	種雄豚にニンニク粉末が入った混合飼料を給与して精力減退を防止することで、受胎率が向上し、分娩間隔を 155.4 日から 151.3 日に短縮できた。
飼料費の低減	子豚用飼料に飼料用米を約 15% 添加して給与	代替した子豚用飼料の 1kg 当たり単価が前年より 19.3 円低減した。

表-12-2 生産性向上を図るために実践している取り組み内容

目 的	取り組み内容	効 果
季節に応じた飼養管理技術の確立	夏季は霧状の散水システムを活用	豚舎内の温度上昇を防ぐことで夏季の飼料採食量の落ち込み、発育停滞を抑制し、肉豚1日当たり増体量は693gと良好であった。 散水システムはビニールハウス用の散水チューブを使い自力施工したことで、総費用約8,000円と低コストで設置することができた。
	夏季は移動式の細霧発生機を使用	暑熱ストレスによる飼料採食量の落ち込みを抑制し、離乳後の発情再起、排卵を正常に誘起することで、離乳から受胎までの日数が9.7日と良好であった。
	夏季は朝の涼しい時間帯に飼料給与を開始	
	冬季は分娩柵にコルツヒーターと温水床暖房を設置	離乳時育成率が85.3%から91.6%に向上した。
	冬季は巻き上げカーテン式の豚舎の内部にビニールシートを設置	ビニールシートを利用することで保温効果が向上し、種雌豚の健康状態が良好に保たれ、繁殖成績が高位に安定した。特に、流産・早産発生率は0%を達成した。
適正範囲内での肉豚出荷の励行	出荷前に必ず肉豚の体重を測定し、枝肉重量を揃えて出荷	出荷日齢、雌雄、季節変動による出荷体重のバラツキを抑制することで、年間を通して枝肉重量は約75kgと大きく、上物率は66.6%と高い。
地域防疫体制の確立	地域の養豚農家全員が豚舎への入口に「無断立入禁止」看板を設置	地域全体の防疫体制が確保され、オーエスキー、豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）の豚舎への侵入を防止できた。

## 6 参考資料

### 酪農部門

#### 1 生産技術数値

区 分			指標値	最大値	最小値	經 営 体 番 号					
						1	2	3	4	5	6
診 断 期 間						22.9.1~ 23.8.31	23.1.1~ 23.12.31	23.1.1~ 23.12.31	22.11.1~ 23.10.31	22.11.1~ 23.10.31	22.11.1~ 23.10.31
規 模	飼 料 畑 a			600	0	0	600	0	520	340	350
	經 産 牛 頭			49.8	18.1	49.8	43.8	32.0	23.5	24.9	18.1
技 術 管 理	牛 乳	經 産 牛 平 均 産 歴 産	3.5以上	3.2	2.3	2.8	2.6	3.0	3.0	3.2	2.3
		經 産 牛 平 均 分 娩 間 隔 月	13.5以内	18.4	13.9	15.9	15.4	13.9	16.0	18.4	16.0
		經 産 牛 平 均 種 付 回 数 回	2.0以内	4.3	1.1	1.1	1.9	1.8	2.7	4.3	3.3
		經 産 牛 処 分 率 %		52.2	25.0	34.1	36.5	25.0	35.5	52.2	44.2
生 産 管 理	牛 乳	搾 乳 牛 1 頭 当 り 産 乳 量 k g		11,308	9,319	9,498	10,966	11,308	9,996	9,569	9,319
		經 産 牛 1 頭 当 り 産 乳 量 k g	9,300以上	10,003	8,509	8,509	9,925	10,003	8,722	8,735	9,021
		濃 厚 飼 料 1 k 崙 当 り 産 乳 量 k g		3.02	1.76	1.99	2.61	1.76	3.02	2.58	2.96
		脂 肪 率 %	3.8以上	3.86	3.64	3.71	3.68	3.64	3.85	3.85	3.86
		無 脂 固 形 分 率 %	8.8以上	8.92	8.53	8.61	8.82	8.69	8.63	8.53	8.92
		体 細 胞 数 千 個	160以下	296	215	236	237	221	296	264	215
飼 料 給 与	經 産 牛 1 頭 当 り 濃 厚 飼 料 給 与 量 k g		3,425	5,687	2,889	4,288	3,799	5,687	2,889	3,387	3,043
		經 産 牛 1 頭 当 り 粗 飼 料 給 与 量 k g	4,900	6,210	3,375	3,375	6,114	4,473	6,210	5,472	6,042
	給 与 充 足 率	C P %		130.0	112.9	116.6	130.0	124.2	113.9	123.7	112.9
		T D N %		119.0	102.9	102.9	116.2	119.0	114.6	110.7	108.7
	与 割	体 重 に 対 す る 全 給 与 %		4.5	3.5	3.5	4.3	4.5	4.0	3.9	4.0
給 与 割 合 粗 飼 料 %			2.7	1.5	1.5	2.7	2.0	2.7	2.4	2.6	

2 経営数値

区 分			指標値	最大値	最小値	経 営 体 番 号							
						1	2	3	4	5	6		
技 術 管 理	飼 料	経産牛1頭当り作付実面積 a		22.1	0	0	13.7	0	22.1	13.7	19.3		
		T D N 自 給 率 %		29.3	0	0	18.0	0	29.3	13.0	12.4		
	生 産	10a 当り収量	青刈作物 kg		3,998	2,515	-	-	-	3,998	2,515	-	
			永年牧草 kg	5,000以上	3,691	3,691	-	-	-	-	-	3,691	
		1k 当り生産費	生 草 円		-	-	-	-	-	-	-	-	
	埋 草 円			31.40	9.22	-	-	-	9.22	25.75	31.40		
			乾 草 円		-	-	-	-	-	-	-		
	労 働	経産牛1頭当り飼養管理時間		時間	120.0	350.1	115.4	139.3	200.3	115.4	295.3	195.1	350.1
		10a 当り飼料栽培時間		時間	8.0	11.8	5.0	-	-	-	5.5	5.0	11.8
	経 営 管 理	出 荷	生乳1kg当り販売単価		円	118.34	116.85	116.85	117.89	117.20	117.65	117.36	118.34
生 産		生乳1kg当り	生産原価	円	160.18	100.33	116.97	111.77	100.33	122.06	110.02	160.18	
			総原価	円	155.82	111.35	123.29	119.09	111.35	135.87	121.43	155.82	
原 価		生乳1kg当り	生産原価	円	102.24	74.65	91.37	83.49	80.78	74.65	77.38	102.24	
			自家労賃控除後総原価	円	97.89	88.46	97.69	90.81	91.80	88.46	88.79	97.89	
所 得		経産牛1頭当り所得		円	268,472	153,127	153,127	268,472	253,994	254,516	249,184	184,246	
		1日当り所得		円	32,217	9,137	20,892	32,217	22,268	16,387	16,999	9,137	
		所得率		%	20以上	23.3	14.7	14.7	21.9	20.1	23.3	23.0	16.8
管 理 全 性		乳 飼 比		%	50以下	62.3	44.1	61.1	50.6	53.5	44.3	44.1	62.3
		うち経産牛当りの乳飼比		%	45以下	51.3	36.8	51.2	39.7	51.3	36.8	42.2	50.2
	支払利息対売上高比率		%	2以下	1.9	0.0	0.2	0.6	0.0	0.4	1.9	0.1	
	減価償却費対売上高比率		%	15以下	17.8	9.1	17.8	9.1	11.5	10.1	14.6	10.2	
	自己資本比率		%	50以上	87.5	▲ 5.5	45.1	▲ 5.5	86.8	63.8	13.7	87.5	
	流 動 比 率		%	200以上	535.1	69.3	508.5	90.8	261.9	200.7	69.3	535.1	
	経産牛1頭当り固定資産額		千円		1,150	281	1,150	322	499	494	443	281	
経産牛1頭当り負債額		千円		858	100	858	690	100	264	655	106		

(注) 1 飼料生産における1kg当り生産費は自家労賃控除額で示した。  
 2 経産牛1頭当り負債額は流動+固定負債の期首・期末の平均で示した。



和牛繁殖経営部門

1 生産技術数値

区 分		指標値	最大値	最小値	経 営 体 番 号			
					1	2		
診 断 期 間					23.1.1～ 23.12.31	23.1.1～ 23.12.31		
技 術 管 理	規 模	繁殖牛飼養規模頭		33.9	32.4	33.9	32.4	
		繁殖牛1頭当たり飼料畑面積 a		50.2	47.9	47.9	50.2	
		繁殖牛1頭当たり年間労働力時間		125.4	105.5	125.4	105.5	
	繁 殖	平均産次（供用産次）産	7.0以上	5.8	4.8	4.8	5.8	
		平均分娩間隔カ月	12.0以内	12.1	11.8	11.8	12.1	
		受胎に要する種付回数回	1.5以下	1.7	1.7	1.7	1.7	
		ET含年間子牛生産頭数頭		28	26	26	28	
	子 牛 育 成	ET含年間子牛販売頭数頭			22	20	22	20
		雌 子 牛	販売時日齢日	270以上	303	300	303	300
			販売時体重kg	260以上	283	277	283	277
			日齢体重kg	0.96以上	0.93	0.92	0.93	0.92
		雄 子 牛	販売時日齢日	270以上	282	277	277	282
			販売時体重kg	290以上	291	288	291	288
			日齢体重kg	1.07以上	1.05	1.02	1.05	1.02
	子牛事故率%		3.0以下	3.4	0	0	3.4	
販 売	雌子牛販売価格円			334,857	331,500	331,500	334,857	
	雄子牛販売価格円			475,308	418,083	475,308	418,083	
	平均円			408,955	388,050	408,955	388,050	

2 経営数値

区 分				指標値	最大値	最小値	経 営 体 番 号		
							1	2	
技 術 管 理	飼 料 給 与	繁殖牛 1頭 当 たり 給 与 量	濃厚飼料	kg	1.5	1.5	1.4	1.5	
			粗飼料	kg	7.7	5.3	5.3	5.3	
			計	kg	9.2	6.8	6.7	6.8	
		飼料費	1日あたり	円		232	229	229	232
			年間	円		84,680	83,585	83,585	84,680
	子 牛 1 頭 当 たり	1日 給 与 量	濃厚飼料	kg	2.0	3.5	3.3	3.3	
			粗飼料	kg	1.6	0.8	0.7	0.8	
			計	kg	3.6	4.2	4.1	4.1	
		飼料費	1日あたり	円		293	284	284	293
	年間		円		71,199	69,012	69,012	71,199	
粗飼料自給率				%	88.0以上	88.8	85.8	85.8	
経 営 管 理	原 価	自家労賃控除後		生産原価	円	314,866	298,121	298,121	314,866
				総原価	円	304,351	298,936	304,351	298,936
	所 得	繁殖牛1頭当たり所得		円		122,005	71,927	122,005	71,927
		所得率		%	35.0以上	25.2	15.5	25.2	15.5
	安 全 性	支払利息対売上高比率		%	4.0以下	0.04	0	0.04	0
		減価償却費対売上高比率		%	15.0以下	19.4	17.2	17.2	19.4
		自己資本比率		%	50.0以上	79.3	68.7	79.3	68.7
		流動比率		%	100.0以上	1,182.6	806.8	1,182.6	806.8
		繁殖牛1頭当たり資産額		千円		902	718	902	718
	繁殖牛1頭当たり負債額		千円		225	187	187	225	

和牛肥育経営部門

1 生産技術数値

区 分			指標値	最大値	最小値	経 営 体 番 号						
						1	2	3	4	5		
診 断 期 間						23.1.1~ 23.12.31	23.1.1~ 23.12.31	23.1.1~ 23.12.31	22.11.1~ 23.10.31	23.1.1~ 23.12.31		
技 術 成 績 管 理	規 模	肥 育 牛 飼 養 規 模	頭	127.5	33.6	127.5	86.5	66.1	60.0	33.6		
		肥 育 牛 1 頭 当 た り 労 働 時 間	時 間	75.9	20.7	57.1	44.4	20.7	53.1	75.9		
	肥 育 技 術 成 績	期 間 販 売 頭 数	頭	72	21	72	51	21	36	23		
		去 勢 牛 ( か ) 出 荷 頭 数	頭	(10) 60	(0) 16	(10) 60	(4) 47	21	36	(7) 16		
	こ こ は 雌 の 成 績	出 荷 月 齢	ヵ月	29.0以内	(30.4) 31.1	(29.5) 29.2	(30.4) 30.1	(30.2) 30.6	31.1	29.2	(29.5) 29.5	
		肥 育 日 数	日	600以内	(695) 671	(647) 621	(660) 661	(695) 645	671	621	(647) 639	
		出 荷 体 重	kg	740以上	(706) 797	(699) 759	(701) 759	(706) 797	785	795	(699) 783	
		枝 肉 重 量	kg	470以上	(447) 505	(433) 471	(435) 471	(447) 505	487	501	(433) 486	
		1 日 当 た り 増 体 重	kg	0.78以上	(0.72) 0.86	(0.60) 0.73	(0.67) 0.73	(0.60) 0.78	0.74	0.86	(0.72) 0.80	
		枝 肉 格 付 4 等 級 以 上 率	%	70.0以上	(100) 100	(71.0) 80.6	(80.0) 81.7	(100) 87.2	95.2	80.6	(71.0) 100	
		事 故 率	%	2.0以下	4.2	0	4.2	0	0	2.7	4.2	
	販 売	販 売 牛 1 頭 当 た り	円	1,219,366	928,158	972,373	1,039,974	1,219,366	928,158	1,020,625		
		枝 肉 1 kg 当 た り	円	2,505	1,719	2,089	2,077	2,505	1,719	2,173		
	飼 料 給 与	肥 育 牛 1 頭 1 日 当 た り 給 与 量	濃 厚 飼 料	kg	8.1	9	6.8	6.8	8.1	7.0	9.0	8.0
			粗 飼 料	kg	2.0	3.2	2.4	2.4	2.6	2.5	2.5	3.2
計			kg	10.1	11.5	9.2	9.2	10.7	9.5	11.5	11.2	
		飼 料 要 求 量	kg	12.9	14.5	12.8	12.8	13.9	12.8	13.5	14.5	
飼 料 費	1 日 当 た り	円	622	396	396	622	537	565	608			
	増 体 1kg 当 た り	円	818	550	550	818	726	657	785			

2 経営数値

区 分				指標値	最大値	最小値	経 営 体 番 号				
							1	2	3	4	5
経	原	販売牛1頭当たり	素牛費	円	425,629	390,137	393,770	414,381	417,450	425,629	390,137
			生産原価	円	672,899	504,033	504,033	559,662	672,899	554,716	599,748
			総原価	円	894,588	497,784	497,784	626,784	894,588	616,478	684,653
	価	販売牛枝肉1kg当り	素牛費	円	972	828	846	828	873	972	831
			生産原価	円	1,407	1,015	1,138	1,117	1,407	1,015	1,277
			総原価	円	1,871	1,124	1,124	1,251	1,871	1,138	1,457
営	管	出荷牛1頭当たり所得	円	200,787	▲ 1,405	200,787	94,668	▲ 1,405	9,874	101,053	
		肥育牛1頭当たり所得	円	113,385	▲ 446	113,385	55,816	▲ 446	5,924	69,173	
		肥育牛1頭当たり補てん金受領額	円	20,902	3,634	19,321	15,651	3,634	15,943	20,902	
		肥育牛1頭当たり補てん金控除所得	円	94,064	▲ 10,019	94,064	40,165	▲ 4,080	▲ 10,019	48,271	
		所得率	%	10.0以上	21.1	▲ 0.1	21.1	9.0	▲ 0.1	1.0	9.9
理	安	支払利息対売上高比率	%	2.0以下	5.1	0	1.0	0.1	5.1	0.2	3.5
		減価償却費対売上高比率	%	5.0以下	7.8	2.5	4.6	2.5	4.3	6.2	7.8
		自己資本比率	%	50.0以上	79	▲ 18.9	67.5	79.0	▲ 18.9	-	34.3
		流動比率	%	200.0以上	7,653.0	148.5	1816.6	7,653.0	149.0	-	148.5
		肥育牛1頭当たり資産額	千円		1,087	758	758	1,087	792	-	958
		肥育牛1頭当たり負債額	千円		942	228	247	228	942	-	629

養豚部門

1 生産技術数値

区 分		指標値	最大値	最小値	経営体番号						
					1	2	3	4	5	6	
診 断 期 間					23.1.1～ 23.12.31	23.1.1～ 23.12.31	22.12.1～ 23.11.30	22.8.1～ 23.7.31	23.1.1～ 23.12.31	22.12.1～ 23.11.30	
規 模	種 雌 豚	頭	151.9	43.0	151.9	99.1	93.9	52.7	45.4	43.0	
	種 雄 豚	頭	9.6	2.9	5.3	9.6	5.5	3.0	3.0	2.9	
技 術	種 雄 豚 1頭当り種 雌 豚 頭 数	頭	28.7	10.3	28.7	10.3	17.1	17.6	15.1	14.8	
	種 雌 豚 更 新 率	%	59.2	20.9	59.2	37.3	38.4	39.9	39.7	20.9	
	種 雌 豚 平 均 産 歴	産	4.8	3.1	3.2	4.8	3.1	3.8	4.3	4.8	
	繁 娩	1 腹 当 り 分 娩 頭 数	頭	11.5以上	12.5	11.3	11.4	12.5	11.5	12.3	12.0
		“ 死 産 頭 数	頭		1.2	0.4	0.6	1.2	1.0	0.4	1.2
		“ 哺 乳 開 始 頭 数	頭	10.9以上	11.9	10.5	10.8	11.3	10.5	11.9	10.8
		流 産 ・ 早 産 等 発 生 率	%		1.11	0.00	0.00	0.41	1.11	0.84	0.00
	管 殖	1 腹 当 り 離 乳 頭 数	頭	9.5以上	10.2	9.2	9.9	10.0	9.2	10.2	9.7
		平 均 哺 乳 日 数	日	24	26.9	21.4	22.9	23.0	21.4	25.2	26.9
		子 豚 1 頭 当 り 離 乳 時 体 重	kg	6以上	6.0	5.0	5.0	6.0	5.0	6.0	6.0
離 乳 時 育 成 率		%	90以上	91.7	85.7	91.7	88.5	87.6	85.7	89.8	
管 理	分 離 乳 ～ 受 胎 平 均 日 数	日	12以内	24.4	9.7	14.4	9.7	23.7	24.4	14.7	
	分 娩 間 隔 日	日	150以内	163.6	146.7	151.3	146.7	159.1	163.6	155.6	
	年 間 回 転 回	回	2.43以上	2.49	2.23	2.41	2.49	2.29	2.23	2.35	
	年 間 換 算 離 乳 子 豚 頭 数	頭	23以上	24.9	21.1	23.9	24.9	21.1	22.7	22.8	
	飼 料	種 雌 豚 1 頭 当 り 年 間 換 算 給 与 量	kg	1,050	1,302	962	1,302	1,150	962	1,118	
勞 働	種 雌 豚 1 日 1 頭 当 り 勞 働 時 間	分	4.5	5.4	2.2	2.2	4.7	3.2	4.2	5.4	
	肥 育 豚 1 日 1 頭 当 り 勞 働 時 間	分	0.5	0.6	0.3	0.3	0.4	0.6	0.4	0.5	
	出 荷 豚 1 頭 当 り 勞 働 時 間	時	2.2	3.5	1.2	1.2	2.2	3.5	2.6	2.8	

2 経営数値

区 分		指標値	最大値	最小値	経 営 体 番 号						
					1	2	3	4	5	6	
技 術 管 理	肥	肉 豚 飼 養 規 模 頭		1,225.4	392.9	1,225.4	1,067.4	655.1	557.0	415.0	392.9
		種 雌 豚 1 頭 当 り 肉 豚 出 荷 頭 数 頭	23.0	23.9	12.0	23.4	23.9	12.0	19.6	21.8	21.7
		增 出 荷 体 重 kg	6以上	6.0	5.0	5.0	6.0	5.0	6.0	6.0	6.0
		增 体 量 kg	115	116.5	110.6	115.3	115.1	113.2	116.5	113.8	110.6
		体 肥 育 期 間 日	109	110.5	104.6	110.3	109.1	108.2	110.5	107.8	104.6
	管 理	1 日 当 り 增 体 量 g	161	183.4	155.5	180.8	159.1	171.3	183.4	155.5	158.5
		事 故 期 間 平 均 事 故 率 %	670以上	693	603	610	686	632	603	693	660
		密 度 肥 育 豚 1 頭 当 り 飼 育 面 積 m <sup>2</sup>	3以下	13.6	2.8	4.3	4.2	13.6	10.5	3.3	2.8
		枝 肉 重 量 kg		1.4	0.5	0.726	0.648	1.378	0.496	0.767	0.825
		出 荷 枝 肉 1kg 当 り 販 売 単 価 円	75	75.4	72.2	74.3	75.1	74.1	75.4	73.9	72.2
管 理	総 出 荷 枝 肉 1kg 当 格 落 ち 金 額 円	14以下	29.60	6.56	23.73	6.56	29.60	13.10	14.55	14.70	
	上 物 率 %	60以上	65.9	30.5	30.5	65.9	49.6	52.8	57.4	60.8	
	飼 料 飼 料 要 求 率 -	2.78	3.13	2.87	3.13	2.87	2.90	2.90	2.99	2.98	
	原 価	離 乳 時 子 豚 1 頭 当 り 生 産 原 価 円		8,825	6,024	6,024	6,428	8,825	6,867	7,674	7,669
経 理 管 理	原 価	" 総 原 価 円		8,729	5,789	5,789	7,165	8,729	7,185	6,947	7,950
		生 産 原 価 出 荷 1 頭 当 り 円		37,211	23,913	23,913	28,721	37,211	28,993	34,128	34,348
	原 価	出 荷 枝 肉 1kg 当 り 円		502	382	476	382	502	385	462	476
		総 原 価 出 荷 1 頭 当 り 円		38,754	25,795	25,795	35,027	38,370	34,266	34,614	38,754
	原 価	出 荷 枝 肉 1kg 当 り 円		537	454	514	466	518	454	468	537
		自 家 労 賃 控 除 後 総 原 価 出 荷 1 頭 当 り 円		35,149	24,140	24,140	32,511	33,401	30,603	30,646	35,149
	原 価	出 荷 枝 肉 1kg 当 り 円		487	406	481	433	451	406	415	487
		種 雌 豚 1 頭 当 り 所 得 円		90,284	▲ 51,372	30,768	56,830	▲ 19,925	90,284	58,801	▲ 51,372
	管 理	肉 豚 出 荷 1 頭 当 り 所 得 円		4,610	▲ 2,370	1,315	2,381	▲ 1,660	4,610	2,705	▲ 2,370
		肉 豚 出 荷 枝 肉 1kg 当 り 所 得 円		61	▲ 33	18	32	▲ 22	61	37	▲ 33
管 理	期 間 1 日 当 り 所 得 円		15,430	▲ 6,052	12,804	15,430	▲ 5,126	13,035	7,314	▲ 6,052	
	所 得 率 %	15以上	13.1	▲ 7.2	5.2	6.8	▲ 5.2	13.1	8.1	▲ 7.2	
全 性	安 全 性	支 払 利 息 対 売 上 高 比 率 %	2以下	0.6	0.1	0.5	0.1	0.1	0.6	0.1	0.2
		減 価 償 却 費 対 売 上 高 比 率 %	10以下	18.4	5.7	10.6	7.1	18.4	11.4	5.7	6.7
	安 全 性	肉 豚 出 荷 1 頭 当 り 支 払 利 息 円		225.0	28.0	130	28	28	225	43	81
		" 減 価 償 却 費 円		5,827.0	1,914.0	2,698	2,491	5,827	4,007	1,914	2,202
	安 全 性	自 己 資 本 比 率 %	50以上	92.7	▲ 1.3	▲ 1.3	92.7	18.4	61.9	64.6	62.5
		流 動 比 率 %	200以上	1,232.0	109.7	474	1,232	110	723	426	359
		種 雌 豚 1 頭 当 り 固 定 負 債 額 千 円		791.0	50.0	791	50	211	238	59	144
種 雌 豚 1 頭 当 り 負 債 額 千 円		760.0	76.0	760	76	359	269	100	213		

## 平成23年度 畜産コンサルタント名簿

### 1 常勤

担当部門	氏名	所属	資格	職名
総括	佐藤 栄治	公益社団法人新潟県畜産協会	総括畜産コンサルタント 畜産環境アドバイザー	事務局次長
	鍋谷 政広	公益社団法人新潟県畜産協会	獣医師	衛生指導課長
養豚	谷川 昌行	公益社団法人新潟県畜産協会	畜産環境アドバイザー	係長
肉用牛	荒井 紫織	公益社団法人新潟県畜産協会		技師

### 2 非常勤

担当部門	氏名	所属	資格	職名
経営	高橋 一裕	新潟県農林水産部経営普及課		副参事
	阿部 浩一	新潟県農林水産部経営普及課		副参事
	牛腸奈 緒子	新潟県農業総合研究所基盤研究部		専門研究員
飼養管理 (全般)	大矢 俊行	新潟県農林水産部経営普及課	*	副参事
飼養管理 (酪農・肉用牛)	宮腰 雄一	新潟県農業総合研究所畜産研究センター酪農肉牛科	*	専門研究員
	中川 浩	新潟県農業総合研究所畜産研究センター酪農肉牛科		主任研究員
	篠川 温	新潟県農業総合研究所畜産研究センター酪農肉牛科		主任研究員
飼養管理 (酪農)	吉田 智佳子	新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター		助教
	関 誠	新潟県農業総合研究所畜産研究センター酪農肉牛科		専門研究員
	水落 栄一	新潟県妙法育成牧場	*	場長代理
	新井田 治	新潟県農業共済組合連合会事業部家畜課		考查役
	川上 政之	東日本くみあい飼料株式会社新潟営業所営業課		調査役

担当部門	氏名	所属	格資	職名
飼養管理 (肉用牛)	高橋英太	新潟県農業総合研究所畜産研究センター酪農肉牛科	*	主任研究員
	佐藤昭仁	新潟県農業共済組合連合会事業部家畜課		副査役
	柳澤公二	東日本くみあい飼料株式会社新潟営業所営業課		調査役
飼養管理 (養豚)	大久保剛揮	新潟県農業総合研究所畜産研究センター生産・環境科	*	主任研究員
	藤井崇	新潟県農業総合研究所畜産研究センター生産・環境科	*	主任研究員
	田中淳一	東日本くみあい飼料株式会社新潟営業所営業課		副審査役
家畜衛生 管	馬上齊	新潟県中央家畜保健衛生所企画指導課	*	主査
	森田笑子	新潟県中央家畜保健衛生所佐渡支所		主任
	後藤靖行	新潟県下越家畜保健衛生所企画指導課		副参事
	竹内智胤	新潟県中越家畜保健衛生所企画指導課		主任
	金子周義	新潟県上越家畜保健衛生所		次長
飼料作物	岡島毅	新潟大学農学部		准教授
	小橋有里	新潟県農業総合研究所畜産研究センター生産・環境科		主任研究員
会計・経理	豊田直彦	日本政策金融公庫新潟支店農林水産事業農業食品課		職員
	熊木衛	新潟県農業協同組合中央会総務企画部	◎	査役
	相馬裕司	新潟県農業協同組合中央会農業対策部		職員
	山本亮	新潟県信用農業協同組合連合会リスク統括部		職員
	江口兼太郎	新潟県信用農業協同組合連合会融資部		職員
	阿部圭悟	新潟県信用農業協同組合連合会農業部		職員

(注) 非常勤の資格の\*印は畜産環境アドバイザー、◎印はJA全国専門畜産経営診断士を示す。



## 新潟県畜産経営技術高度化推進事業

### 事業主体

新潟県農林水産部畜産課

TEL 025-285-5511（内線 2966） FAX 025-280-5010

URL <http://www.pref.niigata.lg.jp/chikusan/1196698566592.html>

### 事業受託者

公益社団法人新潟県畜産協会

TEL 025-234-6781 FAX 025-234-7045

URL <http://niigata.lin.gr.jp>